



新刊

Comprehensive Dentistry
Stomatognathic System Function
Its Diagnosis and Rehabilitation

包括歯科臨床Ⅱ

顎口腔機能の診断と回復

著：筒井 照子，筒井 祐介

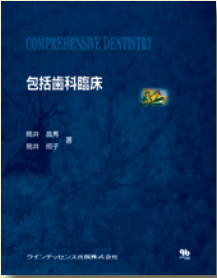
臨床写真点数
4,000超

- スーパーワイド判(248×307mm)
- 456ページフルカラー
- 本体 42,000円(税別)
- モリタ商品コード:805682

既刊書・DVD

包括歯科臨床
著：筒井 昌秀，筒井 照子

スーパーワイド判 | 448ページ
2003年刊
本体 42,000円(税別)
モリタ商品コード：804637



歯科医療に携わるあらゆる専門家が、この本で臨床の頂の高さを知り、この分野の医療の豊かさを知った。

イラストで見る筒井昌秀の臨床テクニック
著：筒井 昌秀(作画:佐竹田 久)

A4判変型 | 174ページ
2004年刊
本体 16,500円(税別)
モリタ商品コード：805065



「包括歯科臨床」で不動の評価を得た筒井のテクニックの詳細を知りたいという声に応え、筒井塾の受講生の視点から描かれたイラスト受講ノートを元に、そのテクニックを示した。

態癖一力のコントロール
編著：筒井 照子，西林 滋
小川 晴也

A4判 | 212 ページ
2010年刊
本体 18,000円(税別)
モリタ商品コード：805415



不具合の訴えが、なかなか解消しないことがある。完成した補綴物の咬合が安定しないことがある。顔面や全身姿勢に注目し、ME機器を多用して、はじめて<力>が目に見えてくる。態癖を口腔診断に大胆に組み込んだ咬合療法はこうして生まれた。



DVD 版 包括歯科臨床

著：筒井 昌秀
筒井 照子
65分 / 特別付録111分
2007年刊
本体 16,000円(税別)
モリタ商品コード：805244



筒井昌秀臨床 DVD ①
エステティックゾーンの
歯周形成外科と審美補綴

著：筒井 昌秀，筒井 照子
解説：上田 秀朗，大村 祐進，木下 俊克，榎 恭範，白石 和仁，中条 伸哉，廣瀬 了美
A4判 / 32ページ / DVD(1)50分、(2)62分、(3)77分 / 2008年刊
各巻 本体 13,000円(税別)
モリタ商品コード：①805268，②805272，③805273



筒井昌秀臨床 DVD ②
歯周再生療法とその応用



筒井昌秀臨床 DVD ③
インプラント周囲軟組織
のマネジメント

注 文 書

☐ 新刊 包括歯科臨床Ⅱ 顎口腔機能の診断と回復	冊	☐ DVD 版 包括歯科臨床	冊
☐ 包括歯科臨床	冊	☐ 筒井昌秀臨床 DVD ① エステティックゾーンの歯周形成外科と審美補綴	冊
☐ イラストで見る筒井昌秀の臨床テクニック	冊	☐ 筒井昌秀臨床 DVD ② 歯周再生療法とその応用	冊
☐ 態癖一力のコントロール	冊	☐ 筒井昌秀臨床 DVD ③ インプラント周囲軟組織のマネジメント	冊

お名前	医院名	ご指定歯科商店
(〒)		
ご住所		
TEL	FAX	
		支店・営業所

クインテッセンス出版株式会社 営業部行 FAX：03-5800-7592

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料を頂き、代金引換宅急便でお送り致します。

2015-8

Comprehensive Dentistry
Stomatognathic System Function
Its Diagnosis and Rehabilitation

包括歯科臨床Ⅱ

顎口腔機能の診断と回復

筒井 照子 著
筒井 祐介

- スーパーワイド判(248×307mm)
- 456ページフルカラー
- 本体 42,000円(税別)
- モリタ商品コード：805682

歯科医療の広がりと深さ

圧倒的な臨床実績に裏付けられた
臨床医のための顎口腔機能の診断学

患者の訴えに対する深い洞察



顎位, 歯列, 咬合平面に
自然の秩序を回復する
数々の手札

クインテッセンス出版株式会社

目次

二つの咬合学——序に代えて 8
Two Paths to Occlusion

生理学的咬合の基本

Chapter 1 機能障害の診断学 Diagnostics of Functional Disorder

3 症例

患者の訴えを歯科医学的に解釈する。このもっとも基本的なことができているだろうか。齲蝕と歯周病はいいとして、どのようにして口腔機能障害の病態を把握し、病因を推理し、診断を下すことができるだろうか。

- 1-1 歯科における診断学
- 1-2 形態と機能の診断
- 1-3 患者の訴えから病態を探す
- 1-4 二段階の診断——病態の診断と補綴治療計画のための診断
- 1-5 病態の連鎖／治癒の連鎖

Chapter 2 力と炎症のコントロール Management of Dynamics and Inflammation

5 症例

著者が提唱した「力のコントロール」という考え方は、言葉としては普及し、定着した。では、顎口腔系に働く力を恒常性の振れ幅の中に維持するには、どのような処方箋が有効なのか。患者と医療者の役割分担は如何に。力といっても、まず炎症がとれなければ機能は見えない。知覚過敏や咬合痛なども力に関係していることがある。

- 2-1 「力のコントロール」の前に
- 2-2 力のコントロールと「治癒のかたち」
- 2-3 かかりつけ歯科に求められる顎口腔機能障害への対応

「歯にモノがつまる」「かみにくい」「歯がしみる」「舌が痛い」
——容易に病名をつけがたい患者の訴えに、あなたはどうか対応していますか？

口腔衛生状態が悪くないのに、骨欠損が進んでいる
——あなたは自信をもって診断できていますか？

Chapter 3 力を読む Interpretation of Dynamics

18 症例

力は見えない。しかし患者の顔面を観察すると、顎口腔系に働く力が見えてくる。口腔周囲筋の癖、生活習慣による口腔外からの力、生活が強い姿勢、その力は顎・顔面・口腔の疲労のサインとして現れる。例えば、口角の上り、鼻唇溝の深さなどをみれば余分な力が加わっていることがわかる。

- 3-1 力が読めるようになった道筋
- 3-2 口腔周囲筋のアンバランス
- 3-3 咬合に大きな影響を与える態癖
- 3-4 「力＝機能を読む」ための目で診るサイン

Chapter 4 機能の診査 Functional Assessment

5 症例

患者と情報を共有するには、まず機能を可視化しなければならない。そこでいくつかの診査機器を活用するのだが、問題はその使い方だ。仮説を立て、その仮説を確かめるために検査し、患者の理解とともに診断に至る。

- 4-1 口腔機能異常の診査は発見的問題解決
- 4-2 機能異常を形態から読み解く
- 4-3 機能の「見える化」
- 4-4 必要な検査を必要なときに

Chapter 5 咀嚼運動と咬合面形態 Masticatory Movement and Morphology of Occlusal Surfaces

4 症例

咬合器上の模型で限界運動を再現することをもって咬合を論ずることが、多くの誤りを生んだ。患者個別の咀嚼運動を理解することから、咬合の落とし穴がいくつも見つかる。咀嚼運動を理解することの大切さを分かってくれい。

- 5-1 咬合器上に再現される下顎の動きと咀嚼運動
- 5-2 臨床的限界運動と咀嚼運動の違い
- 5-3 咀嚼運動の種類
- 5-4 咀嚼運動時の後方の干渉
- 5-5 機能異常のリスクとなる咬合面の加齢変化
- 5-6 咀嚼運動を踏まえた咬合面形態
- 5-7 からだは動かなければ緊張する
- 5-8 病因論としての咀嚼運動を知る



Chapter 6 全身のなかの下顎位 Mandibular Position in the Systemic Context

15 症例

下顎位とは、これまで上顎に対する下顎の位置とされてきた。しかし、臨床的に頭蓋の偏位や上顎骨の歪みを経験すると、私たちが信頼すべき下顎位とは、リラックスした全身の中の下顎の位置であることがわかる。生活習慣により顎位が変化すると、体のバランスも変わる。臨床的には下顎をどう元に戻せばいいのか。

- 6-1 全身姿勢のなかの下顎位
- 6-2 上顎骨の偏位、変形
- 6-3 下顎頭および関節突起の変化
- 6-4 下顎位——リラックスした筋肉位(リラックスポジション)
- 6-5 下顎位の評価

生理学的咬合の整理・見方

Chapter 7 崩壊と治癒のパターン Trends in Occlusal Collapse and Healing

10 症例

では、どのように診断し、どのように治療することが有効か？ ここで病態を大づかみに把握するために、崩壊と治癒のパターンを念頭に置いておきたい。それによって崩壊の予知と、手当が可能になる。

- 7-1 「壊れていく」道筋
- 7-2 「治癒」への道筋
- 7-3 崩壊の予知と手当

Chapter 8 ストマトロロジーにおける個体差の診断 Stomatologic Diagnosis of Specificity

8 症例

ここまでのエッセンスを集めて、骨格型、筋肉型、咀嚼型の三つの要素で個体差を把握すると、診断の座標軸が明確になり、崩壊と治癒の道筋が明らかになる。これは、ストマトロロジーの診断と呼び得るだろう。例えば、ClassⅢで筋肉が強く、斜め卵型の咀嚼運動する人は、加齢により下顎は前上方に回転し、バイトは深くなり、ClassⅢ傾向は強くなり、白歯は近心に倒れ…

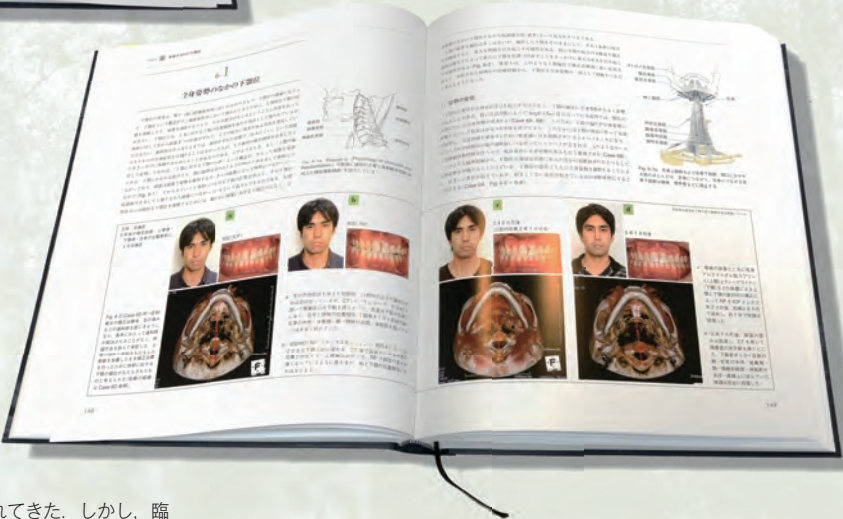
- 8-1 個体差を理解するための骨格(S)、筋肉(M)、咀嚼(C)
- 8-2 骨格型(S)+筋肉型(M)+咀嚼(チューイング)型(C)による症型の分類

生理学的咬合学の考え方で、生体のかたちを元に戻す

Chapter 10 元に戻すスプリント療法と形態再付与 Recovery of Inherent Form by Splint Therapy and Reshaping

個体差に応じた機能の改善を進めるために、どのような治療計画を立てればよいか。ここでは個体差に応じて、多種多様なスプリントをどのように選択するか、咬合面形態を若返らせる形態再付与とその効果について示す。

- 10-1 個体差・個人差を踏まえた治療計画
- 10-2 「診断用スプリント」と「元に戻す」スプリント
- 10-3 形態再付与(リシェイピング)



歯列やかみ合わせが乱れている
——原因を知らずに矯正をして、後戻りしないと言えますか？

修復や補綴の長期経過が、期待したとおりにならないとき
——患者が求め、歯科医師が手をこまねいてきた、そこに臨床の宝が埋もれている。

顎口腔機能障害

Chapter 13 顎関節症とその他の顎口腔機能障害 Temporomandibular Disorders and other Stomatognathic Dysfunction

9 症例

いわゆる顎関節症や重度の機能障害など、不定愁訴をもつ患者の治療は難しいようにみえて、ここまで述べた顎口腔機能障害の治療の延長線上で十分に対処可能である。

- 13-1 顎関節症および他の顎口腔機能障害
- 13-2 歯科治療で目指すべき患者視点のエンドポイント評価
- 13-3 歯科臨床に残されたもの

Chapter 9 機能異常と臨床診断 Functional Aberration and Clinical Diagnosis

6 症例

ここで患者の訴えから機能異常を読み取り、崩壊と治癒の個体差を理解して、実際にどのようにアプローチすることが有効で、またどのようなリスクがあるか、リスクに応じた手札をどう使うか、を考えていこう。

- 9-1 顎口腔系の特殊性と機能異常の診断学
- 9-2 発見的問題解決

Chapter 11 元に戻す修復的歯牙移動 Recovery of Inherent Form by Tooth Migration

基本治療によって恒常性の振れ幅の中に戻ったところで、歯列と咬合平面を機能に調和したかたちに回復する。そこで必要なのが、修復的歯牙移動を可能にする様々な装置である。

2 症例

- 11-1 修復的歯牙移動の考え方
- 11-2 修復的歯牙移動に用いる装置

修復処置で、生体のかたちを元に戻す

Chapter 12 補綴的な咬合の回復 ——生理学的咬合と補綴学的咬合の整合性—— Occlusal Rehabilitation by Prosthodontic Treatment — Coherence in Physiologic Occlusion and Prosthodontic Occlusion

18 症例

生理的な調和が回復したところで、修復的歯牙移動とともに咬合を回復するもうひとつの方法は咬合面の補綴である。「二つの咬合学——序に代えて」で述べた生理学的咬合学と補綴学的咬合学の整合性をどのように得るか、症例をもって示す。おおまかな診断がついたら、発症していなかった時の形に戻す。形が元に戻れば、症状は軽減する。

- 12-1 補綴治療のための前提
- 12-2 咬合面形態を学んできた道筋
- 12-3 ストマトロロジーの分類に沿った補綴的な咬合の回復